
暗い悪夢の真実

エンディング・ED

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗い悪夢の真実

【Nコード】

N3032Y

【作者名】

エンディング・ED

【あらすじ】

これは、作者が実際にやってしまったポケモンの…いわば、バグ。それで失敗した。

それを（最近知った）噂に混ぜながら 記す。

(前書き)

エン「多分…かなり暗いです…」

ピカ「なら…何で書くの？」

エン「調べていたら…“彼女”の事を思い出したので…。」

ピチュ「彼女って…ああ、あの子…。」

ヤミヨ「ダイヤモンド・パールの女主人公

ある夜…ヤミヨは、夢を見た。

暗い場所を駆け抜ける夢だ。

彼女は最初、四天王の部屋にいた。

…その後は、覚えていない。

気が付いたら…ココを駆けていた。

途中で、花の匂いがする場所を通った。

まるでソノオの花畑の様な匂いだった。

そこを更に駆け抜け、着いたのは霧がかかった場所。

そのの雰囲気は、何処となく“もどりの洞窟”に似ていた。

そこを彼女は駆け抜けた。…駆け抜けてしまった。

暫くの間、彷徨った。

そして戻ろうとした。

だが彼女は、戻れなかった。

…何かが追ってきている様な気がした。

そして彼女は、また駆けだした。

だが　彼女は転んでしまったのだ。

起き上がって駆けだそうとしたが、動けない。

辺りの空間を触ると、壁があつた。

姿無き声と言った。

『君は、もう戻れないよ。』

君は四天王の忠告も聞かずに走つた。

走つて走つて、遂には唯一　戻れる場所を通り過ぎた。

そして　―　に追われてここまで来た。

君はもう戻れない。

その証拠に…ホラ。

君がいるその場所…何かに似てないかい？

…そうそれは……………

君の棺桶なんだよ。』

~~~~~

「…!？」

ヤミヨは、飛び起きた。

夢にしては妙にリアルだった。

下から母親が呼んでいた。

そつだ、今日から初めての冒険なんだ。

さあ、行こう！！

彼女は、知らない。

彼女…ヤミヨが…二代目だという事を。

(後書き)

ピカ「暗いよー」

エン「…思いだしたら悲しくなってきた…」

ルカ「二度と、そういう事は起こすなよ。」

エン「絶対に起こしません。もう二度と。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3032y/>

---

暗い悪夢の真実

2011年11月13日14時26分発行